

授業科目名	在宅看護学		担当教員	◎栗栖千幸、新田静江、木村奈津子、 佐々木真弓、小淵真理、鈴木茂樹、 齋藤 恵、鎌田喜子、吉野有美子	科目ナンバリング NS265
必修	開講年次：2年後期	単位：3単位	授業形態：講義30時間 演習30時間		

【授業概要】

在宅看護の対象者を理解し、地域で生活する在宅療養者と家族への支援に求められる看護の基礎的知識と技術を習得する。

【達成目標】

1. 在宅看護を構成する概念について説明する。
2. 在宅ケアの発達を促進する社会情勢や社会福祉制度を理解する。
3. 地域における看護活動の変遷と現状を考察する。
4. 地域看護における在宅看護活動の位置づけを理解する。
5. 在宅看護の対象とその環境を理解する。
6. 在宅看護の特徴と看護師の役割について説明できる。
7. 医療チームの一員として社会資源の連携と活用を図るための方法が説明できる。
8. 在宅看護に必要な知識と技術がシミュレーションの場で説明、実践できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|-------------|
| [01] 在宅看護をとりまく社会状況と法・制度 | (栗栖) |
| [02] 在宅における訪問看護「訪問看護において必要な倫理と態度」 | (栗栖) |
| [03] 「地域包括ケアシステムの実際」【課題1-1】 | (栗栖) |
| [04] 【対談】インクルーシブな教育を実現するために「看護」は必要か？一肢体不自由者である当事者の経験を通して考える | (栗栖) |
| [05] 家族アセスメント 療養者・家族への教育・指導 | (新田) |
| [06] 呼吸障害のある療養者と家族への在宅看護 | (新田) |
| [07] 訪問看護の機能と訪問看護ステーション
「プロフェッショナル仕事の流儀」【課題1-2】 | (栗栖) |
| [08] 在宅の事故と感染への対応 | (新田) |
| [09] 認知症のある療養者と家族への看護 | (新田) |
| [10] 訪問看護における情報収集(介護保険)【課題2-1】 | (栗栖) |
| [11] 在宅における住環境の整備 | (栗栖) |
| [12] 【演習】住環境 | (栗栖) |
| [13] アドバンスケアプランニング(体験型学習) | (栗栖) |
| [14] 障害のある小児の療養者と家族への看護 | (栗栖・木村) |
| [15] 難病のある療養者と家族への在宅看護 | (佐々木) |
| [16] 排泄機能障害のある療養者と家族への在宅看護 | (小淵) |
| [17] 在宅療養者と家族を支える専門職連携 | (栗栖) |
| [18] 認知症サポーター養成講座(鴨川市) | (栗栖) |
| [19] 訪問看護における情報収集(医療保険)【課題2-2】 | (栗栖) |
| [20] 栄養摂取困難のある療養者と家族への在宅看護 | (栗栖) |
| [21] 訪問看護導入における視点と態度 | (栗栖) |
| [22] 訪問看護導入における視点と態度【演習】訪問看護擬似体験 | (栗栖・佐々木・木村) |
| [23] 在宅酸素療法(HOT)と人工呼吸器使用の療養者への支援 | (鈴木) |
| [24] 【演習】HOTと人工呼吸器使用療養者への支援
訪問看護における情報収集(医療保険) | (栗栖・鈴木) |
| [25] 在宅療養者と家族介護者の生活 | (栗栖) |
| [26] 【対談】在宅療養者と家族介護者の生活 | (栗栖) |
| [27] 在宅看護における職種間連携
ケアマネージャーによる支援の実際 | (齋藤) |
| [28] 入院患者・家族への退院調整看護師による退院支援の実際
ソーシャルワーカーによる支援の実際 | (吉野) |
| [29] 南房総における訪問看護(栗栖)【シンポジウム】「やりがい事例と苦悩事例」 | (栗栖) |
| [30] 【シンポジウム】「やりがい事例と苦悩事例」グループ討議 | (栗栖) |

【教科書】

特に定めない。

【参考書】

指定なし。授業の度に資料を配布し、参考文献等を提示する。

【評価方法・評価基準】

試験成績(定期試験)60%、課題学習40%にて評価する。
合格は試験得点が60%の得点(36点/60点)以上で、総合点が60点以上とする。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行い授業に臨むこと。
事後学習：各講義の事後学習として翌週に小テストを実施する。指定された課題を指定用紙に記載して提出する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ、根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ、多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

レポートは評価点を記載して学期内に返却する。

【備考】

1回目の授業で受講にあたっての注意点を確認する。必ず出席すること。